

改善計画書

岐阜羽島地域循環型社会形成推進地域計画の達成状況について評価を行ったところ、達成することの出来なかった目標がありましたので、その要因を分析するとともに、今後の改善計画を策定しました。

なお、減量化に係る目標未達成については総排出量が減ったことが要因であるため（減量化率は達成している。）、記載をしておりません。

1 目標を達成できなかった項目について

(1) ごみ処理

ア 1事業所当たりの排出量

目標 1.59 t に対し、1.65 t であった。

イ 直接資源化量

目標 17,599 t に対し、9,606 t であった。

ウ 総資源化量

目標 60,619 t に対し、34,441 t であった。

(2) 生活排水処理

合併処理浄化槽等 汚水衛生処理人口

目標 61,676 人に対し、50,675 人であった。

合併処理浄化槽等 汚水処理人口普及率

目標 11.7% に対し、9.6% であった。

2 目標を達成できなかった要因について

(1) ごみ処理

ア 事業系資源ごみ量が平成 17 年度と比べて減少したため、総排出量に対する 1 事業所当たりの排出量が増加したと考えられる。また、中小零細企業が多数を占めているため、排出量の削減余地が小さいことが主要因である。

イ 文書のデータ化及び包装の簡易化等により、平成 25 年度の事業系ごみ紙類排出量が、平成 17 年度と比べて減少したほか、容器需要の変化により、1 本当たりの重量が大きいカン・ビンの排出量（事業系）が減少し、相対的に重量の軽いペットボトルの排出量（事業系）が増加したことが主要因である。

ウ イの要因に加えて、集団回収量が平成 17 年度と比べ減少したほか、全国的な新聞・

雑誌等の発行部数の減少や軽量化、設置が増加している民間の古紙等回収ボックスへのフロー変化が要因である。

(2) 生活排水処理

下水道の整備地域が拡大していく中で、補助対象地域が減少したことと住宅団地などの集中浄化槽を含めた合併処理浄化槽から下水道への切り替えが多数行われたこと及び経済状況の悪化が主要因と考えられる。

3 目標達成に向けた施策について

(1) ごみ処理

ア 立入指導調査の実施対象としている事業所要件を拡大した。また、排出量削減の対象品目として、生ごみの水切りに注力して指導する。

イ ビン・ペットボトル、カンの分別啓発を継続するとともに、アの施策において、オフィスペーパー（雑がみ）の分別指導に注力していく。

ウ 集団回収の機会を増やすため、古紙専用の回収ボックスを設置していく。
また、ほとんどが分別されずに焼却されている「雑がみ」の回収を増やすため、「雑がみ」に対する奨励金を増額していく。

(2) 生活排水処理

各戸訪問、広報誌及びインターネット等により啓発活動を強化します。また、高度処理浄化槽に対する補助金額を増額して単独処理浄化槽の管理者に対して補助事業の案内と合併浄化槽への切り替えの啓発を行う等の施策を実施している。